第２３回　緑の市民委員会

会議録

１　日　時　　平成２４年　5月２１日（月）　　１０：００～１２：００

２　場　所　　４０１・４０２会議室

３　出席者

（委　員）　久委員長、　下村副委員長、　日髙副委員長、
磯貝委員、　稲葉委員、　大鋸委員、　倉品委員、　林原委員
藤田委員、　山田委員、　岩井委員、　北島委員

（事務局）　吉岡都市整備部長、中井みどり景観課長、西本みどり景観課課長補佐
西川花のまちづくりセンター所長、巽みどり景観課緑化推進係長、坂東みどり景観課主任
大澤みどり景観課

（欠席者）　１名

４　議事内容

１　開　会

２　案　件

（１）平成２４年度みどり景観課所管の緑化推進に係る事業概要について（説明）

（２）花・緑まちづくりフェスタ in ふろーらむについて（報告）

（３）その他

【久委員長】　それでは、案件（１）の「平成２４年度みどり景観課所管の緑化推進に係る事業概要」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】　（事務局　説明）

【久委員長】　後ほどの案件で 4 月 29 日のふろーらむイベントの報告があるので、それ以外のところで議論したい。
大半が継続事業で、朱書きは次回以降、集中的に時間をとって審議したいと思っている。
全体的なところで何か質問・意見等はあるか。

【山田委員】　「全国モーターボート競走施行者協議会」からの補助は今年度限りということだが、いくらくらいの補助になるのか。

【事務局】　両方合わせて 180 万円。

【山田委員】　いろいろな助成制度が国や民間団体であり、私もインターネットなどで調べている。できるだけこういう制度を利用することにより、基金も助かるのではないかと思っている。
「みどりの基金」は都市緑化基金という財団の協力でスタートしたのだろうが、今まで生駒市はそういう制度を利用されたことはあるか。

【事務局】　日本宝くじ協会のコミュニティ助成事業を活用している。

【久委員長】　自治体は宝くじの協力をしているので、宝くじの助成が１番使われていると思う。

あと、みどり関係だと緑の羽根の「緑の募金」がある。

【事務局】　「みどりの基金」については市の単独事業としている。１億円という「みどりの基金」は市の税金から作っているので、そのような助成とは関係ない。

【山田委員】　都道府県、各市町村の緑、花に対する取組の状況を調査した。兵庫県、神奈川県、熊本県はかなり進んでいる。行政が進んでいるのか、県民が進んでいるのか。色々な制度を利用していることが分かった。
税金も大切だが、そういう制度を利用することで少しでもよくなるのではないかと思い、生駒市はどれくらいそのような制度を活用しているのかという質問につながった。

【久委員長】　その辺りは全国的に取り合いになっている状態なので、手を挙げてすぐに助成されるということにはならないと思うが、事務局も頑張って、色々と手を挙げてもらうのも一つの方向だと思う。
ちなみに、兵庫県は阪神淡路大震災の時の特別な基金からおりるということもあり、活用して色々な事業をしているが、そろそろそれも東北へと回るという状況になっている。

【林原委員】　ここに書かれている事業計画が年々と具現化しているにしたがって、山田委員が言われたように、色々な制度の利活用も連動させる必要があると思う。
同時に景観計画にもマッチングさせ、展開していく必要があるのではないかと思う。

【久委員長】　私と下村副委員長は色々な自治体をお手伝いしているが、生駒は進んでいるほうだと思う。ただ、制度だけ作っても運用が上手くいかないこともあり、今後は委員の皆さんの協力をいただきながら頑張っていければと思う。

【下村副委員長】　久委員長と同感だ。かなり他市と比べたら頑張っていると思う。
「みどり景観課」というところも少ない。景観系を扱っている部署は建築系、建築指導担当などが多いが、生駒市では緑を大切にしていることがよく分かる。
建築系の部署で景観づくりや景観形成などをしていると、基本計画の本文のどこかに「自然景観を」と書かれているが、段々と「緑」「自然」などの言葉がなくなっていき、最後には、建物をどうするかとか言う話だけになってしまう。
生駒市はそうではない計画になっている。私の分野から言うと嬉しい限りだ。

【北島委員】　「花とみどりの楽校」に関して。実は昨日「花とみどりの楽校」の入校のハガキが来て嬉しかった。昨年は落選したので今年も駄目だと諦めていた。
市民の皆さんに花や緑のまちづくりへの関心を、一部の人だけではなく、できるだけたくさんの人に持ってもらうことが大事だと思う。
私でも当選したということで、今年の申込みの状況はどれくらいだったのか。

【事務局】　今年については、花の講座が１５名、緑の講座が１３名で、定員の３０名まではいかなく抽選がなかった。申込者全員に受けていただくということで、案内を送った。

【久委員長】　定員が割れてしまったが、他でもそういう傾向がある。3、4年はたくさん申込みがあるが、５年目以降はどんどん減っていく。関心のある人がそこで切れてしまうのだろう。そこから広がっていかないという感じがする。
出向いてまで勉強しようという意識の高い人は、まだまだ限られている。

【林原委員】　昨年に落選した人たちには案内したのか。

【事務局】　2 回落選した人４名と、もう少し広げて昨年に落選した人達にも連絡した。

【日高副委員長】　昨年の抽選の結果で、どうせ無理だろうと思われたのか。
　ただ、どういう状況になるか、締め切りまで待っても分からないと思う。最後に駆け込みでたくさん申し込みがあるかもしれないし、手当たり次第連絡してせっかく申し込んでもらっても、抽選してまた落選というわけにもいかないし。難しいところだと思う。

【大鋸委員】　久委員長が言われたのでちょっと安心したのだが、前回の緑の市民委員会で、募集するにあたりボランティアという点を前面に出したらと発言した関係上、もしかしたらボランティアが前面に出たことで申込数が少なくなったのではと責任を感じたのだが、そうではないのか。

【久委員長】　それはあるかもしれないが、段々減ってくるのが普通だ。
　ただ、それで絞られたということは良いことではないかと思う。

【大鋸委員】　逆に、熱意のある人に応募してもらえたかもしれない。

【日高副委員長】　情熱を持っている人ばかりが集まってもらえたらありがたい。

【久委員長】　市民活動などで、参加料を徴収してイベントを開催する際、例えば500円を取らないと赤字が出るのに、100、200円に抑えているところがある。
　500円だと高いから来てもらえない、と言われるが、逆に赤字覚悟で運営していると自分たちが立ち行かなくなる、500円払ってまで来てくれる人をお客にしておかないと苦しくなってくる、という話をあるところでした。
　やはり、ボランティアが条件であるのならボランティアがあるということをちゃんと前面に出して、それでも来てもらえる人に絞るほうがいいのかな、という気もする。

【日高副委員長】　楽校を卒業して「知識が増えて良かった」だけではなく、ひき続きボランティアの情熱をもって継続してもらえる人に絞っても良いのではないかと思う。

【久委員長】　例えば、生涯学習をしている人は「自分が勉強したい」という人なので、なかなか地域還元とか社会還元に発展していかない。せっかく税金で勉強させてもらっているから、少しでも社会還元して下さいと言っているが。
　それよりも、卒業したら地域に還元してくれる人で絞る、ということのほうが、やはり良いことだと思う。

【山田委員】　コミュニティパーク事業について。鹿ノ台の事業が先日のオープニングセレモニーをもって終わり、ありがたく思っている。
　ついては、応募者が減になっている傾向にある。増えるような施策が欲しい。

【久委員長】　住宅メーカーが、実際に住んでいる家に購買客を連れて行って、住人に住んでみての感想を聞くというイベントをしている。例えば、他の自治会役員などを鹿ノ台に連れて行き、コミュニティパーク事業を利用するとこんなに良くなったと鹿ノ台の人に宣伝してもらう、そんな事業があってもいいのかなと思う。
　過去、コミュニティパーク事業を実施した地域で説明会を開き、その地域の人から「うちはこういう大変なこともあったけど、乗り越えてこんないい様になったよ」とＰＲをしてもらう。市役所から言うよりも当事者から言ってもらうほうが、絶対アピール力がある。

【山田委員】　私も色々なことで国、県、市に一市民としてＰＲ活動をしている。自治会などでも世代交代が着々と進み、心配することはないということがよく分かってきた。
　このように、今は市民がＰＲ活動を頑張っている。行政も一生懸命しているのはよく分かるが、具体的な内容が市のほうから出てこない。

例えば、ある小学校がこうなった、というのは教育分野が頑張っている。市民が何かの賞をもらった、それは市民が頑張った。スポーツの世界でも、ここでこうなったというのがあった。
行政のほうからは、今、市長が一生懸命総合評価が上がったということをＰＲしているが、各課からこういうことが出来た、というニュースが伝わって来ないのが残念だ。
もっと、生駒市はこういう施策をやるんだ、やったんだ、というアピールが欲しい。
十数年前に都市緑化基金の緑のデザイン賞で１千万円を受けた。やっと生駒市も動いてくれたと、あの時は感激した。
それ以後、実際のところ、何があるか。
例えば、水道局では今度発電所を作って売電をする、という意気込みが伝わってきた。
市民も色々な形で参画している中で、行政からのインパクトが今一つかなという感じを受けるがいかがか。

【事務局】　水道局や、今なら環境保全施策など、それぞれの分野で施策をしている中で、個人的に思うのは、久委員長も言われていたように、かなり充実して先進的な緑の制度が出来上がっていると思う。
花とみどりの楽校では、開校式にいつも学校長として受講生に言っているが、これだけのお金を使っている養成講座は、多分他にはない。１１回連続で有名な先生に来てもらっている。
山田委員が言われたように、そういうところをＰＲしていかないといけないのではないかと思うが、結局地道な作業なので、その方法も非常に難しいと思う。

【久委員長】　山田委員が言われているのは、市のホームページのトップページに出すとか広報の特集になるとか、表に出てこないと目立たない、ということだと思う。行政はその辺りがなかなか難しい。
私も今、学部の広報委員長をしている。高校生に伝えないと受験してもらえないので、トップページに何を持ってくるかが非常に重要なのだが、特定の教授や学部に偏ってはいけない。なにをトップページに出すとか特集するとか、そういう調整が難しい。
そこは、上手く競争になっていくといいのだが。

【磯貝委員】　コミュニティパーク事業について。
平成 23 年度から２ヵ年に一度で実施とあるが、事業が２年に１回あるということか。例えば、鹿ノ台で昨年度に実施したので今年度は実施しないというか。来年度に実施するというか。

【事務局】　コミュニティパーク事業は２ヵ年で行う事業になった。
１年目はワークショップを行い、住民同士が対象公園をどのように整備、活用するのかを話し合って決める。２年目はその計画案を元にした工事及び住民自身の手でできる作業を行う。
２ヵ年に一度となった経緯は、応募が少なくなったということと、資料１に掲載している「市民の森事業」という事業も、候補地周辺の住民によるワークショップを開催して「市民の森」の計画を立案し、次年度に工事をして改造するといった事業になるので、業務的に過大となるため２ヵ年に一度となった。事業としては常に作業をしている。

【磯貝委員】　みどりの基金は１億円でスタートし、年間１千万円くらい使われていると、10 年でなくなる。基金の集め方を工夫しないと減る一方だ。
事業を減らさず従来どおりとすれば、寄附等をどうやって集めるかという議論が必要となる。

【久委員長】　箕面市にも同様の緑の基金がある。初年度は 2 億 5 千万円で、どんどん減少し、あと数年で無くなる。
先日、担当者に「無くなったらどうするのか」と聞いたところ、無くなったら無くなったでいいのではないか、市が 2 億 5 千万出して、あと市民が何も出してくれないのだったら、これで一区切りでよいのではないか、無くなって市民から何とかしないといけないと言ってもらえない限りは、また市が１億円出すということは、いつまでも市だけが出していくということ

になってしまう、と言っていた。

【林原委員】　本来、基金というのは資本金で崩すのが目的ではない。しかし金利が下がっている現在、寄附金等と合わせても収入はせいぜい１００万円弱で、取り崩さざるをえない。
　取り崩して自然消滅してしまうのも良しとするか、多角的機能的にＰＲを強化して寄附集め、人集めを強固に推進し存続を図るか、どちらか選択をしないといけない。

【山田委員】　先ほどの質問とつながるが、いろいろな助成制度が官民問わずあり、最近は自治会、ＮＰＯ等の応募が多く行政は少ない傾向がある。もっと積極的に応募をすれば助かるのではないか。

【事務局】　最近の傾向としては、行政の応募では採択されないケースが増えている。実際に活動する自治会、ＮＰＯ等の団体に直接補助する方が効果が大きいと考えられている。
　基金については、当初は基金で事業費の全額を当てる方針ではなかったが、財政状況逼迫のおり、財政部局からこの基金を活用するようにとの方針が出された。
　ただし良い点もあり、新規事業などを立ち上げる際、税金だけでとなると徹底的にヒアリングを受け規模縮小などになるが、基金活用となると原案通りに大体できる。

【下村副委員長】　ＮＰＯや市民の方々が関わる参加型事業に助成されることが多い。
　また、継続しての事業よりも単発のイベント型・提案型事業へ助成される傾向があるので、同じ内容での助成はよほど探さないといけない。単発のものは多く出しても、それぞれ望まれているかの判断も難しい。

【山田委員】　「緑の募金」では３年間の助成を受けたが、他の助成では分からない。

【下村副委員長】　それも３年間で終わりだ。また３年間の同じ内容での継続で助成を受けるのは難しい。

【山田委員】　次はまた別の助成を探さざるをえない。それは経験した。

【下村副委員長】　そのような助成を受けてもらって、全部生駒市に報告してもらえたら、市が出しているお金ではないが、生駒市として総事業費はこれだけかけていると報告できる。

【久委員長】　自身の活動経験から、結局 NPO 活動が活性化しづらいというのは、寄附など皆でお金を出し合うという文化が定着していないから。援助を求める団体は多いが、援助をしようという市民、市民団体は少ない。みんなでお金を出し合う文化を作っていく必要がある。
　時々数百万円単位で寄附をいただくことがあるが、それは亡くなった方の遺志であり、生きている間は自分が大切だから、お金を抱え込んでしまう。そこをどうくすぐるのかがポイントだ。

【山田委員】　昨年、芦屋で不動産５００坪を寄付ということがあった。生前贈与だが税金対策と思われる。

【久委員長】　古い家屋の寄附は、裏を読めば半分は相続税対策。
　どうしたらお金が集まるのか継続的に良いアイディアを出し合って考えてもらいたい。

【林原委員】　私たち委員会の１２名が定期的に一定金額を寄付をすれば結構な金額になる。緑の市民委員会の意思表示として、何らか支援にはなるのでは。

【大鋸委員】　良い案だと思うが、金額は決めなくてもよいのでは。みんなが団体として参加し、そして緑の市民委員会として総合的にいくらかと。財政が逼迫しているので少しでも役に立てたらという、考え方としては良いのでは。

【山田委員】　市民の中にはそう取らない人もいるが。

【日高副委員長】　どんどこ祭りでは５万円の協賛金を市役所の職員がいただきに行っている。うちわに名前を入れるので宣伝費としていただいている。
この時勢なので年々減っている。「今年を限りに堪忍してくれ」と言われて帰ってきたという話も聞く。協賛金はそんな形でもらっているが、久委員長が言われたように、お金を出し合ったり助け合ったりという文化が、なかなか根付いていない。
ただ、寄付金の集め方として、例えばあすか野で打ち上げる花火の協賛金は一口 1,000 円だが、二人で 500 円ずつ出し合っての 1,000 円でもよい。また、墓地で当たり前のように水を使うが、その時に気持ちだけと貯金箱を置いておくと、結構水道代だといって入れてもらえる。そんな形でのいろいろな方法の集め方を考えてみたらどうかと思う。

【藤田委員】　ふろーらむのイベントでは色々な店舗が出たが、参加費等は徴収するのか。

【事務局】　フリーマーケットのブースでは 500 円以上の協力をお願いしている。

【藤田委員】　他のフリーマーケットなどでは参加費として 1,000 円なりを徴収している。参加費をとって、なおかつ売上金からいくらかを寄附してもらうようなイベントを多く開催していけば、基金が増えてくると思う。

【久委員長】　イギリスの大英博物館は入館無料だが、前に大きな箱があり 20 ポンド以上入れて下さいと書いてある。チャリティの文化があるので違和感はない。

【山田委員】　「市民の森事業」で３件不成立となっているが、どういう形で不成立なのか。

【事務局】　個人所有の土地であり、相続の問題があるので契約できないとのことだ。所有者が高齢ということもあるが、10 年という契約期間が厳しいかと思う。

【久委員長】　現所有者の理解があっても、ご家族の了解が得られないということもある。

【事務局】　相続税の問題が大きい。市が減免する固定資産税と金額の桁が違う。それだったら相続税の何%かを下げてもらうほうがメリットがある、という話だ。

【山田委員】　相続税に減免の措置があれば良いのだが。国税なので、なんともいえないが。

【久委員長】　財務省はなかなかしっかりしている。例えば文化財の指定時にいつも交渉するが、ガードが固い。固定資産税は減免すると言うが、ほとんどタダみたいなもの。相続税が辛い。

よろしいか。朱書の事業は次回以降、集中的に審議する。

それでは、続いて４月 29 日「花・緑まちづくりフェスタ in ふろーらむ」について。

【事務局】　「花・緑まちづくりフェスタ in ふろーらむ」について（報告）

【久委員長】　今回から市役所が全部取り仕切るのではなく、市民も企画から参加してもらうなど進め方が変わったということもあるが、実行委員として、あるいは参加者として関わられた立場から、何か気づいた点はあるか。

【岩井委員】　集計結果の来場者地区別ウェイトだが、北地区 52%、南地区６%と 10 分の１の開きがある。これは抜本的に対策を考えなくてはならないという感じがする。

それと、今回のイベントではボランティアが中心に活動したということだが、実行予算と、最終的に確定した費用はいかほどであったのかを参考までに教えてもらいたい。

【事務局】　南地区の 6%という数字は、当日 29 日は南地区の大運動会があったので、そちらのほうに参加されたということを聞いている。南地区の大運動会が毎年 29 日であれば、フェスタの日程も検討していかなければならないと考えている。
費用面について、現時点では大まかにだが、主だったところではテント等のレンタル料が 30 万円弱、ガードマンの警備委託料が 10 万円強で、それだけで 40～50 万円。
モニュメント材料費他については、いま手元に資料がないため数字として答えられないのでお許し願いたい。

【稲葉委員】　今回ボランティアの協力を得てガードマンなどをしてもらい予算を減らそうということを準備委員会で話し合ったのだが、昨年よりどのくらい削減されたのか。

【事務局】　警備面のガードマンについては半減した。テント代に関しては変わらずだった。

【磯貝委員】　あと、準備や片付けにもボランティアが頑張ってもらった。例年、大勢の市職員（協力職員）で準備、片付けをしていたが、それがほとんどなくなった。

【岩井委員】　当初の来場者目標として 1,000 人と聞いていた。今回 3,000 人の来場があったということで、これは３倍と考えていいか。

【事務局】　例年 1,000 人の規模だ。

【久委員長】　増の分、若干トラブルがあったように聞いている。

【日高副委員長】　先ほど、南地区からの来場者を増やすため開催日変更も検討するとの発言があったが、逆にこれ以上増えていいのか、と思った。
南地区からの来場増は望ましいところだが、その場合駐車場の確保やたけまる号の運行などの対策を考えないと、混乱が起きるおそれがある。

【藤田委員】　このイベントは例年４月 29 日だが、「まちなか・ふろーらむ」などを併催するならもう少し遅くして、花がたくさんあって綺麗な時季に開催してはどうか。

【稲葉委員】　それならば早めた方が良い。

【大鋸委員】　薔薇はもう少し遅いが、その時期花壇にあるビオラ、パンジー、チューリップ類はもうちょっと早いほうが良い。
どの花をメインにするのかによって、日程を考えてもよいのではないか。

【稲葉委員】　植え替えるには早いし難しい。

【大鋸委員】　中途半端な時期だ。

【久委員長】　来場者人数の話題になっているが、私はアンケート集計中「よかったプログラム」で「園芸市・チップ無料配布」に人気があることが、とても気になる。結局物を買いに来ているだけなのか、と。それならば本来のフェスタの意味と違うと思う。
来場者数がまずクリアできたならば、今度は参加者の質を変えていかないと。せっかく開催しているフェスタの意義が半減してしまう。

【倉品委員】　私もそれはすごく感じた。このアンケートを見ていると、花の割合が低くなってしまっている。
やはりある程度以上は花を中心にして、例えば広報などで一般市民のハンギングや寄植えなどを募集し、芝生広場で公開して参加者に投票してもらうなどの、市民全体が参加できるコンテストを開催すれば、花好きの人が応募者間の口コミで多数集まるのではないかと思う。
もう少し、花に力を入れて欲しいと思っている。

【稲葉委員】　いつもの様に花が楽しめなかったという苦情も聞いている。
確かにどんどこ祭りとは性格が違い、来場者が多ければ良いというイベントではない。もっとふろーらむの良さというものを知ってもらいたい。
私は今回は少し違ったな、という感じがある。

【倉品委員】　市民の誰でもが、自分の花に対する気持ちを持ち寄って参加できるイベントを考えてもらいたい。

【北島委員】　私達は実行委員だったが、委員会でそういう案がその時出なかったのが残念だったと思う。今回の反省を活かして次回に反映させれば、更に良くなると思った。

【林原委員】　花を中心に、という考えはよく分かるが、一般市民の目線、感覚からいえば、模擬店などは必要だと思う。客寄せパンダというか、不可欠なのではないか。だから 3,000 人が集まった。
一方は専門的にやりながら、他方では間口を広げて誰でも参加できることが大事だと思う。私は両道で良いのではないかと思う。

【倉品委員】　確かに、会場で会った友人も、まず焼きそばを買いに行ったと言っていた。これがあったから来たと。
実際として、いろいろな模擬店があると来場してもらえるのは理解している。

【久委員長】　アンケートの設問にもう 1 つ項目が欲しい。
先ほどの発言で「焼きそばを食べに来た」とのことだが、食べに来た人が若干でも花に関心を持つようになって帰ってもらうのがフェスタの目的。そこで、例えば「イベント以外でも花を楽しみに、またふろーらむに来てみたいと思いますか？」など、焼きそばを食べに来たことによって、今まで花に関心がなかったが少しでも花に関心が向いた、という効果測定の項目が秋のイベントでのアンケートにあればいいと思う。

【磯貝委員】　私も実行委員として関わり、事務局とも話をして、いっぱい反省材料はある。
しかし、今回のイベントはふろーらむを知ってもらおう、というのが大前提だった。
色々な関係で南地区に行って「ふろーらむを知っていますか？」と聞くと、100 人中 10 人位しか手を挙げてくれない。ほとんど北部地区でしか知られていない。
まずふろーらむを知ってもらう。そこから始まる。
私は別に事務局を応援している訳ではないが、今回のイベントで事務局が狙ったところはそこではないかと思うし、第一段階は成功の内ではないかと思う。
しかし、中身についてはもっと検討しなければならない点がたくさんあるので、今後反省会をしたい。事務局で検討してもらいたいと思っている。

【岩井委員】　私としても、ぜひ反省会をしてほしい。

【日高副委員長】　人数の話ばかりで恐縮だが、どんどこ祭りも最近は来場者が多くなりすぎ、スペースも限られているため満員電車状態になってしまっている。
危険を感じたらイベントではなくなる。
イベント時に来てもらえるのも嬉しいが、一年中どこかで綺麗な花が咲いている普段のふろ

ーらむを知ってもらい、また別の機会にも参加してもらう、という形もまたいいのではないかと思う。
　来場者数が多ければよいのではなく、分散できるような、危険を回避できるような形を、秋には考えていかなければならないかと思う。

【久委員長】　色々なイベントを企画、応援していて思うのは、イベントが大きくなってくると来場者のほとんどは受身の「お客様」として集まってくる。
　そうではなく、皆が企画側やボランティア側にまわってもらい、そこのバランスがとれてきたら実行委員会も楽になってくる。そこをどう変えていくかだ。
　地元の茨木市で４年目を迎える「茨木音楽祭」というイベントを行っているが、ボランティアスタッフだけで 300 名いる。10 ヶ所くらいで運営委員会が同時に動くが、それを分散してやっていけるような体制ができている。これは市役所は全く関係なく市民だけの実行委員会で行っているが、多くの人達がボランティアにまわってもらっている。
　今回のイベントでも、コンサートや工作教室は非常にいいことだが、「お客様」で物を買いにくる人が多いので、これはなかなか実行委員会の方に足が向けないタイプかなと思った。そこのバランスをとる仕掛けがいると思うが。

【山田委員】　市民の自慢の花の展示などの企画を過去にやったことがあるか。

【大鋸委員】　広報で「私の花自慢」ということで何回か募集し、ふろーらむの温室で展示した。

【山田委員】　アンケートの年齢別では 60 歳以上の定年退職された方半分、女性が半分以上だ。北地区が半分以上。ここら辺に働きかけられないかと。
　鉢植えは大きいから移動が大変かもしれない。小物ならいいが「自慢」ともなれば大きいものを持ってくるだろう。レイアウトもあるが、集客力には結びつかないのか。

【大鋸委員】　広報で何回か募集したが、そんなに反応がない。何が原因なのか分からない。

【山田委員】　問７の自由意見では、どのような意見があったのか。

【事務局】　おしなべて好評だった。中にはクイズが難しかったという意見もあった。

【山田委員】　次回には、そこで出ている意見を活用してもらいたい。

【久委員長】　私の研究室メンバーが中心になって毎年２回久宝寺緑地でアースデイのイベントをするが、そこは 100 名くらいの実行委員会で動かしている。その実行委員会の 95%が 20 代。実は 20 代はこういうことが大好きだが、関わらない。大人につべこべ言われたくないから。若い人達にはアレコレ言わず、自分達でやってみろと言うと、非常に熱心に動く。

【下村副委員長】　関西の７大学で屋外空間デザインのコンペ的な会を行っているが、その実行委員会を学生が動かしている。動きたい若い人はたくさんいる。
　実は私の研究室にも生駒市の学生がいるが、ふろーらむのことは知らなかった。やはり知られているのは大事だ。知らない人に来てもらえるようになると、楽校の応募人数も増えるのではないかと。ポテンシャルはあると思う。
　先ほどコンテストの話題があったが、県の全国緑化フェアのときは業者による庭展示のブースを作った。業者は緑化フェアを目指しているので凄い展示をする。何かそういう動機付けがあると、準備はいろいろと大変だが、花専門の人はその方面で楽しんでもらえるのでは。ただ、そうなると逆に文句を言ってくる人も出てきて、痛し痒しだが。

【山田委員】　事務局として、近大の農学部と連携というのはどうなのか。

【久委員長】　近大の農学部には園芸部はない。

【稲葉委員】　ふろーらむのイベントでは最初の頃、園芸店や植木屋や造園の業者が、それぞれ展示を作っていたことがある。しかし、あまり人気がなかった。

【下村副委員長】　業者を中心にし、そこの PR の看板は出してもらうとして、あとはそれこそボランティアがジョイントするなどで。業者に全部任せると予算が限られているし、それだけの費用対効果を考えるだろうから、なかなか難しいところもあると思う。
　現在、ふろーらむの植替えには 100 人くらい来ているのか。

【事務局】　昨日、花の植替えをした。91 人が参加。

【下村副委員長】　植えるときにも、指示されたとおりに植えるのではなく自分達で企画しながら植えるなど、プログラムは一緒でも少し参画のやり方を変えることによって、労力は変わらずに効果を発揮する工夫がないかと思う。

【山田委員】　例えば「チューリップは富山県だ」とかあるように、「生駒市はこの花だ」と大きな面積で植えたりすることは、その地区の住民の意識を醸成する手助けになるものなのか。
　もしそのような動きが市民の意識醸成になるのならば、高山町の休耕田に 1 反、2反とコスモスやヒマワリなどを植え、管理するボランティアの団体を募れば、結構需要があると思う。そういうイベントとジョイントできないものか。

【事務局】　富雄側沿いのコスモス街道はかなりの面積がある。休耕田１反２反の話ではない。その間何百メートルの平地を埋め、数ヵ年行ったが現在は止まっている。
　この花、と決めてしまうのが良いのかどうかは分からない。

【下村副委員長】　秋植えの花の種を同じ日に植える活動ができないかと考えている。生駒市民全員が同じ日に同じ種を、例えば５粒植える。生駒の地形だと大体同じ時に花が咲く。面で増やすのも一つだが、どこの家にも同じ花が必ずある、というのも良いのでは。種類を統一すれば隣同士で影響しあってよくなるとも思う。
　多くは花が咲いた時に祭りをするが、植える祭りをしたいと思う。

【林原委員】　生駒市の花は菊なので、菊を活かしてみては。

【久委員長】　菊人形が有名な枚方には昔のまちなみが残っている。そこで最初からまちなみ整備は難しいので菊一輪を庭先に置いてもらえないかという活動を、当初 17 軒から始めた。それが徐々に増えていっている。最初は協力してもらえるところから広げていくしかない。

【下村副委員長】　市の事業として行うのも一つだが、まずは自治会ごとで進めていければ。

【久委員長】　開発の時から工夫しているのが、とある業者で、各住宅地に造成時から小さな花壇を据え付けておく。そうすると必ず植えないといけなくなり、毎年秋に各通りごとで話し合い花壇を作ってコンテストをしなければならない。それが条件ということを納得して購入している人達ばかりだから、上手くいっている。
　そういう自治会や町内ごとでの小さな試みでも、そういう所をどんどん増やしていく方法もある。

【下村副委員長】　市内一斉清掃ではないが、市内一斉種蒔き日。いろいろと課題はあるが、面白いと思う。

【磯貝委員】　「まちなか・ふろーらむ」の中身は、サインボード看板を出してもらう、出してもらうについてはたとえ１鉢でも植えてもらう、というのが狙いだった。そういう「花１鉢運動」ではないが、「まちなか・ふろーらむ」を活かして、菊の花は難しいのでもう少し易しい花からスタートして、各家庭に絶対 1 鉢置いてもらうんだと働きかけることは、イベントの中で使えそうな気はする。

【久委員長】　全国的に「まちなかバル」というものが流行っている。チケットを買い１日かけて飲み食べ歩きをするのだが、面白いのは地図を貰えること。地図を見ながら普段行ったことのない店を回る。これは「まちなか・ふろーらむ」と同じノリだと思う。地図を持って、今年はここにこういう花が植えてあるから行ってみようと回ってもらう。ついでに言うとスタンプラリーにして、ふろーらむに来たら、ここでやっと何か貰える。今はチップを無料で配っているが、スタンプを集めたらやっとチップを貰える。そういう仕掛けもあるかと思う。

【山田委員】　市街化区域内の未利用宅地に花や花木などを植えるとＰＲになるので、固定資産税を減免する等はどうか。
　市街化区域内の未利用宅地は結構あると思うが、その活用は検討しているのか。

【事務局】　久委員長と一緒に空家、空き地という事で活用の検討をしている。

【久委員長】　なかなか難しい。まず協力してもらえるかどうか。

【磯貝委員】　もっと税金を上げればいいのではないか。空き地にしておかず家を建てなさいと。行政サイドは喜ぶと思う。

【山田委員】　市民が住めば所得税と固定資産税がダブルで入ってくるから、行政としてそのほうが良いか。

【久委員長】　ちょっと色々な話に飛んでいるが、今回はフェスタの話に戻させてもらう。
　基本的には実行委員会で反省会をしてもらい、秋に反映させてということになると思うが、他に何かあるか。

【林原委員】　アンケート結果から、自家用車が圧倒的に多い。交通事故や駐車場の問題もあり、なんとかしないといけない。自家用車を遠慮してもらって、例えば臨時巡回バスやたけまる号を運行するなどの対策が必要と感じる。
　そうすると中・南地区の来場も倍増するのではないか。3,000 人どころか 5,000 人くらい来れば人口の 4～5%くらいになり、イベント効果があると思う。そうなれば日程の問題なども出てくるとは思うが、抜本的に考えなければならない。

【久委員長】　言われていることは分かるが非常に難しい。中途半端はだめだ。駐車場はないと、現にふろーらむには駐車場はなく真弓小学校に借りているわけだから、駐車場はないので絶対に乗ってこないで下さいと言わないといけない。そこは思い切りが必要で、実行委員会で話し合ってもらいたい。

【事務局】　寄せ植えなど色々な物の販売があり、果たしてバスで来たら持って帰れるのかなと、逆に思ってしまうが。

【稲葉委員】　チップの無料配布などは貰っても車がないと持って帰れない。全面自家用車禁止というのはちょっと難しいのでは。
　ただ、バスの運行はオープン当初からずっと行政に毎年言ってきている。でも一向に聞き入れてもらえない。

【大鋸委員】　交通の件は、自分自身も今は車に乗っているが、これからふろーらむに行きたくても行けなくなってしまう現実を目の前にしている。10 年来行政にお願いしている。ふろーらむも含めて北地区を公共交通機関で巡回して歩く、そういうバスの確保などを、是非この機会に検討をお願いしたい。

【久委員長】　私も今は学研北生駒駅ができたので駅から歩いているが、以前は学園前からバスで行った。工夫すれば今でもバスはある。ただ、生駒の施設に行くのに何故奈良まで出ないといけないのか、と思ったことはある。
交通の件は南北を移動する人が少ないからなので、日頃から南北を行き来する人が多くなれば。そのあたりを含めてお願いできたらと思う。

あとはどうか。時間的にもよい時間になったので、また実行委員会のほうでしっかりと検討してもらいたい。

最後に、案件（3）「その他」について、委員の皆さん、事務局から何かあるか。

なければ、本日の案件は以上となる。次回の日程について、一旦事務局にお返しする。

【事務局】　次回の会議の日程について、7月中旬から下旬頃に予定している。
案件は、「コミュニティパーク事業について」を予定している。
日程が決まれば連絡させてもらうので、よろしくお願いする。

【久委員長】　これをもって、「生駒市緑の市民委員会」第 23 回の会議を終了する。